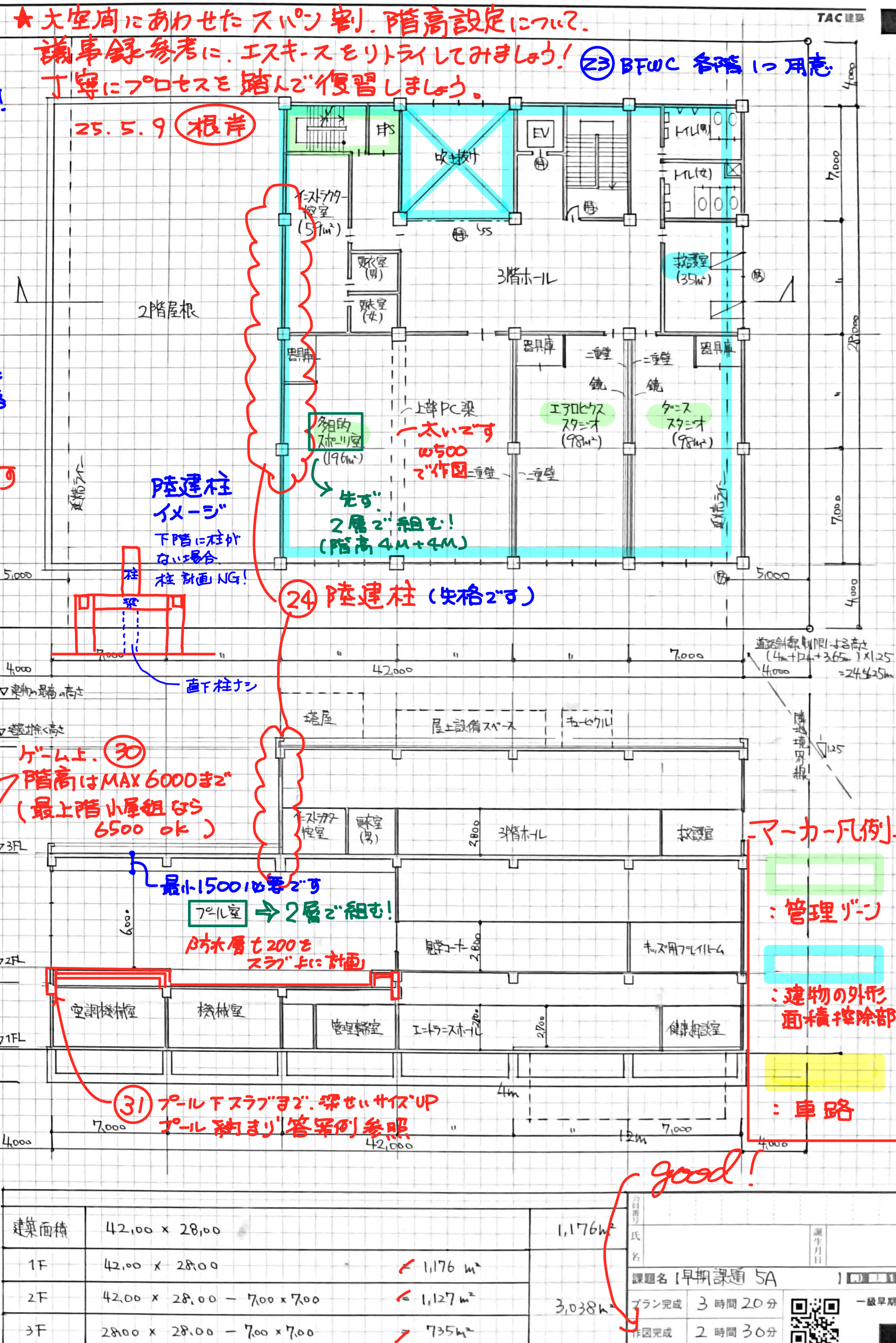
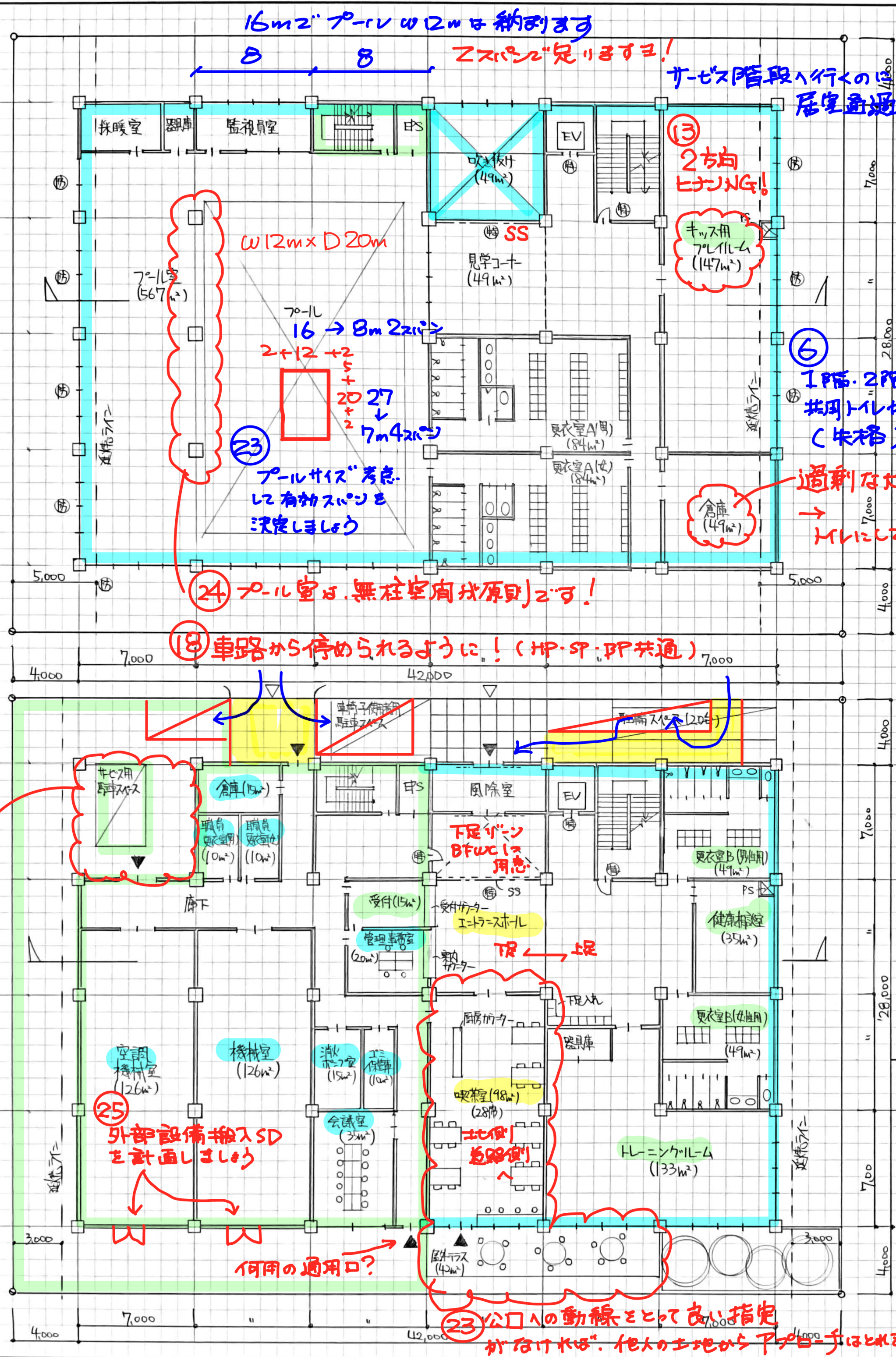




建築面積	42,00 x 28,00	1,176㎡
1F	42,00 x 28,00	1,176㎡
2F	42,00 x 28,00 - 7,00 x 7,00	1,127㎡
3F	28,00 x 28,00 - 7,00 x 7,00	735㎡

氏名	氏名	誕生月	誕生日
課題名 [早期課題 5A]	プラン完成 3 時間 20 分	作図完成 2 時間 30 分	一級早期 5A

令和7年

一級建築士 早期講義

早期課題5A

答案用紙Ⅱ

要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)～(8)を具体的に記述又は図示する。

(1) 敷地周辺の環境(公園を含む)について配慮したこと

北側に道路があるため、建物へのメインアプローチは北側へ設けたが、公園からアプローチが出来ない計画とした。

過半書きまじょう!

公園への出入が許可されてなければ、アプローチはできません!

(2) 吹抜け及びその周囲の空間において、多くの自然光を取り入れるために、平面・断面計画や開口部について工夫したこと

吹抜け北側には開口部を設けることで、吹抜け周囲の廊下が明るくなるようにした。また上部にトップライトを設けることで、より多くの自然光を取り入れることが出来る計画とした。

を(40)黄色マーカー部読めません...

(3) スポーツ関連諸室の配置計画について考慮したこと

各諸室から公園を望むことが出来るよう全て南面させる配置計画とした。また、素足又は上履き利用であることから、喫茶室や管理事務室などとエントランスホール部分を動線と分離した。

下足リターンである

にまとめて計画することです。

(4) スポーツ関連諸室から発生する振動及び騒音に対して、上下階及び隣接する室への影響を抑制するために、特に考慮したこと

3階の各スポーツ関連諸室の隔壁は全て二重壁とすることで、隣接する諸室の騒音低減を図った。また、スラブを通常と比べて厚くすることで、下階への騒音低減を図った。

具体的な数値は?

答案例を参考に真似てみましょう。

設問に回答できている。文章量不足は大減点となるので、

記述の学習時間をとりましょう。

25.5.9 根岸

(5) 防火区画(面積区画・堅穴区画)をどのように区画形成したかについて、具体的に記述する

堅穴部分については、壁を鉄筋コンクリート造とし、その他の部分には防火シッターを設けることで堅穴区画を形成した。面積区画については、各階の床面積が1,500㎡以下のため、スラブによって階ごとに区画する計画とした。

(39)階段・EVといった堅穴部の建具を特定防火設備とすることで、堅穴区画と兼用して

(6) 地盤条件を踏まえて、基礎構造の計画について、基礎の形式、基礎底面のレベルについて考慮したこと

基礎の形式は、べた基礎とし、底面のレベルはGL-2.0mとした。また、埋め戻し部分については、地盤改良を施し、周囲の砂石層と同程度の強度とすることで、建物の不均沈下を防いだ。

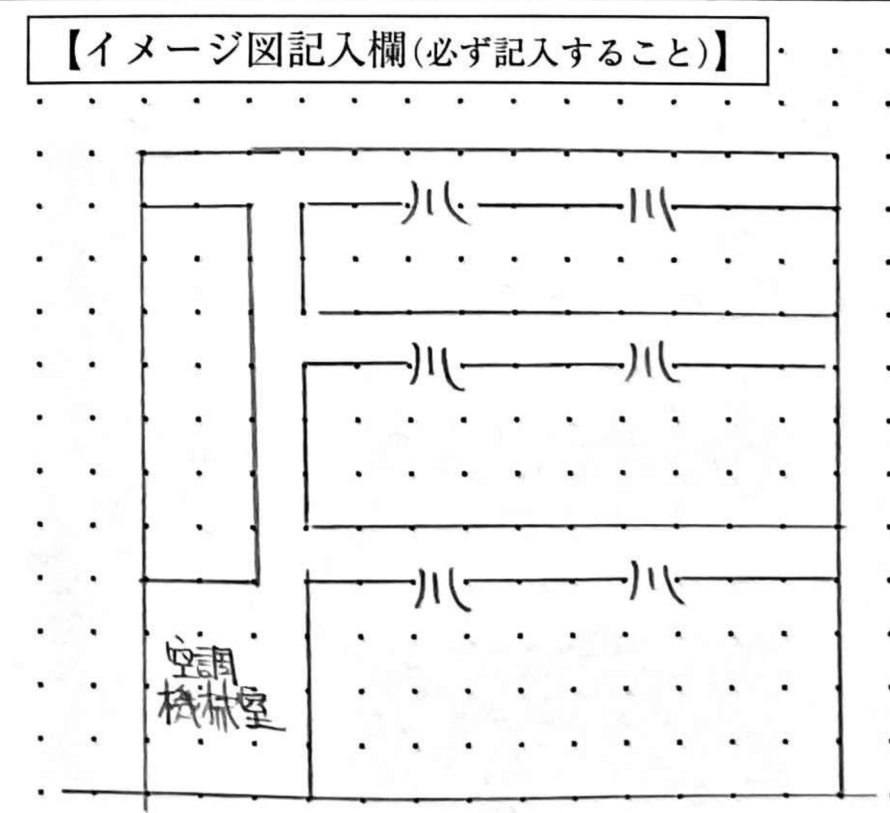
地盤改良のレベルについてもおさえておきましょう

(7) プール室の天井について、天井等落下防止対策について特に考慮したこと

プール室の天井は吊り天井とし、湿度やプールに使用される塩素などに強い構造材を使用した。又、換気設備も多く設けることで、プール室内の湿度や塩素などを素早く排出し、天井材への影響が出来るだけ小さくなるようにした。

(8) 建築物の空調計画(ダクトルート等)について特に考慮したこと

【イメージ図記入欄(必ず記入すること)】



単一ダクト方式のため、各諸室へのダクト配線の折れ曲がり数を少なくすることで、エネルギーの損失が小さくなるように工夫した。また、スポーツ関連諸室の熱負荷の違いに対応できるようにVAV方式を採用した。

過半書きまじょう!

ダクトが求められます。天井、室名(特にプール)がわかりません。答案例参考に